



新潟大学歯学部は、 2000年今まさに

歯学部長 花 田 晃 治

歯学部ニュース平成11年度第1号に「新潟大学歯学部は、今」として当時の現状をかなり詳しく書かせていただきました。この度、歯学部ニュース編集委員より、その後の続報を書けということです。新潟大学および歯学部で進めていることを書き歯学部構成員の方々に是非ともご理解いただきご協力をお願いしたいと思います。

1. 新潟大学の予算

この度、文部省より「教官当積算校費等の改善について」という資料が配られました。その内容を見ますと非常にきびしいものとなっています。

現行では、1)「教官当積算校費」：教官の職種（教授、助教授、講師、助手）別に「博士講座、修士講座、学科目」の分類と「実験講座、非実験講座」の分類を組み合わせで単価設定されていました。歯学部は博士講座、実験講座でした。2)

「学生当積算校費」：学生の区分（大学院博士課程、大学院修士課程、学部）別に「文科、理科、医科、教育」の分類により単価設定されていました。歯学部は大学院博士課程、医科でした。

ところが改善後では、「教育研究基盤校費」としてまとめられ、そのなかで「教育研究基盤校費(教官数積算分)」：教官の職種別に現行の修士講座・非実験に単価が統一され、「教育研究基盤校費(学生数積算分)」：学生の区分別に現行の文科に単価が統一されました。これによって大幅に減額となりました。具体的には、教官当積算校費が平成11年度では19.1億円であったものが、教育研究基盤校費(教官数積算分)が平成12年度では4.5億円と

なりました。学生当積算校費が平成11年度では7.9億円であったものが、教育研究基盤校費(学生数積算分)が平成12年度では4.7億円となりました。こうして大幅に減額になった部分については、平成12年度に限り教育研究基盤校費(大学分)として17.8億円が配分されます。その結果、予算総額としては平成11年度、平成12年度ともに27億円と同額となっています。しかしながら、平成12年度に限り突然の変更は大学運営に支障をきたしますし、大学の評価がまだ出ていませんので、このような額となり、平成11年度と同額の配分となっています。また、教官研究等旅費については、従来は博士講座、修士講座別に単価設定されていましたが、修士講座に単価統一されます。そして今回の措置は必ずしも各大学における配分方法の変更を直ちに求めるものではない、今回の措置はあくまでも積算方法のみを変更するものであり、各大学への配分額や経費の性格、用途等に変更をきたすものではない、となっていますが、平成12年度に各大学の評価が行われますと、平成13年度はその評価に基づいた配分となります。不足分は科学研究費、委託研究費、委任経理金などによって獲得しなければなりません。まさに前号で予測していたとおりになってきました。

2. 新潟大学の運営組織

平成12年4月から新しい運営組織となります。学長、副学長(2名)の他に、運営会議、運営諮問会議、学長補佐会議、評議会、部局長会議が置かれます。新しく設置される運営諮問会議は、新

新潟大学の職員以外から学長が選り文部大臣が指名する10人以内の委員からなります。教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する重要事項、教育研究活動等の状況について本学が行う評価に関する重要事項、その他本学の運営に関する重要事項などを学長の諮問に応じて審議し、学長に助言、勧告を行う組織であります。また、副学長の他に、教育担当、法務担当、就職担当、財務担当、病院担当特別補佐が置かれ、点検・評価担当委員会委員長とともに評議会の構成員に加わります。それに伴って各学部から選出の評議員は2名から1名になります。

3. 歯学部の将来構想

前号にも書きましたように平成13年度概算要求には、歯学部の19講座を3大講座に改組すること、そこには附属病院の歯科麻酔科が移行すること、大学院歯学研究科を一つの口腔生命科学専攻に統合改組すること、歯学部の改組に伴って附属病院では4大診療科、総合診療部、特殊歯科総合治療部とすることが含まれています。特に大学院の口腔生命科学系への部局化にあたっては設置審議会の審査を受けることが予想されます。各教官におかれましては早急に研究業績をまとめて発表する作業をお願いします。口腔生命科学系大学院は生命科学系大学院として発展してゆきます。すでに平成12年度新規概算要求内示事項として、一般入学定員10名減、第3年次編入5名(平成14年4月学生受け入れ、4年制大学で、生物学を履修した者を対象とすることが検討されています)が決まっています。それに伴って平成12年4月からの学部カリキュラム全面改訂作業が続けられています。これにはすでに助教授以下の先生方にも参加されていますが、各講座においても十分な討議をお願いします。一方、大学院の秋季入学制度も始めます。

4. 教養教育の重視およびリベラルアーツ

大学教育委員会ワーキンググループおよび大学教育開発研究センター(大教センター)では教養

教育の充実のための理念と目標について、「本学の教養教育の理念の規定である学則の教育課程の編成に係わり、豊かな人間性を滋養することを基礎とし、課題探求能力を育成する」とまとめました。それに伴って「教養科目」の用語を「全学共通科目」とする提案がなされました。そして実際の内容としては、

- 1) 基本科目(コモンベーシック): 1年次の第1・2セメスター
 - ①スタディ・スキルズ(少人数で文章作成・ディスカッション・スピーチ・プレゼンテーションなどの訓練)
 - ②外国語科目(少人数)。ここでは外部で習得した資格などを単位として認定する。
 - ③情報処理科目(コンピュータ・リテラシー)
 - ④健康スポーツ科目
 - ⑤新潟大学個性化科目

などが考えられています。

- 2) 展開科目: 1~4年次(歯学部は6年次まで)の各セメスター
 - ①主題科目(従来の総合科目で、これがメインとなる)
 - ②人文科学科目
 - ③社会科学科目
 - ④自然科学科目

- 3) 特別基本科目
補充・補正科目

さらにボランティア活動の単位認定も提案されています。これからはこうした教養教育と専門教育をいかに効率的に組み合わせてゆくかになります。

5. 歯学部外部評価

歯学部・歯学研究科・歯学部附属病院の状況を把握し、改善・改革して行くための自己・点検評価は平成6年から行われてきましたが、今回は外部の先生に歯学部・歯学研究科・歯学部附属病院の現状と課題を点検評価していただき、今後の歯学部・歯学研究科・歯学部附属病院の発展のための改善・改革の参考にすることとし、外部評価が行われました。

外部評価の委員は、森本俊文（大阪大学歯学部
長）、三谷英夫（東北大学歯学部長）、野間弘康（東
京歯科大学附属病院長）、坂東永一（前徳島大学歯
学部附属病院長）、石木哲夫（日本歯科医学教育学
会会長）、渡辺 渡（前新潟県立妙高病院長）の諸
先生にお願いし、歯学部・歯学部附属病院概要、
学務関係資料、研究業績資料、病院関係資料など
31点の下記の資料をもとに1月31日に歯学部で説
明・質疑応答を行い、それぞれの先生より、評価
とご意見、提言をいただきました。これらは外部
評価報告書としてまとめ、今後の発展のための資
料として役立ててゆきます。（この項、野田 忠記）

その結果、全体としては高い評価が与えられ、
特に大学院教育、研究業績については今まで我々
歯学部構成員が掲げてきた目標を十分に評価して
いただいた。一方、歯部部の理念・目標の実現の
ための方策・構成員の自覚の確立、学部教育カリ
キュラムの更なる充実・単位互換、研究者・教育
者の交流、教育・研修のための施設・設備の早急
な整備、附属病院における患者数の確保など、ご
指摘いただいた点については真摯に受けとめ、新
潟大学歯学部構成員一丸となって改善、改革に努
力してゆく必要があります。

6. 歯学部 F D (Faculty Development)

今、小学校や中学校において、学級崩壊などの
問題があり、総合学習やゆとり教育など、いろい
ろな教育改革が行われているのは、新聞などで報
道されており、よく知られていることと思います。
大学教育においても、さまざまな教育改革が行わ
れており、制度的な改革はもちろんですが、同時
に教官の意識改革なども求められています。歯学
部の教育において、平成11年度に歯科大学長・歯
学部長会議から歯科医学教授要綱が出され、また、
平成10年度歯科医師国家試験から新しい体系の出
題基準が採用されたこと、臨床実習・臨床研修の
充実が求められていること、また多様化し高度化
した内容が増えていることなど、従来の教育とは
違ったものが求められており、教育目標の設定は
もちろん、教育方法の改善が迫られています。ま

た、歯学教育に今求められる教育法は、学生が能
動的に学習し、歯科医師としての基本的な技能・
知識や態度を修得するためのものであることから、
それに対応した教育学の概念や手法を教官が
学ぶ必要があります。歯学部 F D は歯学部教育の
改善・改革を目的に、平成11年度に下記のような
ものが実施されました。

- 1) 平成11年7月7日 講演：今大学に求めら
れるもの、講師：山下威士（法学部教授・前
法学部長）
- 2) 平成11年11月17日 講演：歯学教育の改革
について、講師：住友雅人（日本歯科大学教
授）、大浦 清（大阪歯科大学教授）
- 3) 平成11年11月30日 講演：医学教育のプロ
グラム、講師：福井次矢（京都大学教授）
- 4) 平成12年1月12日 歯学教育ミニワークシ
ョップ 講師：歯学部学務委員

学生に理解できるような教育をしている
か、学生の不出来を嘆くだけの教育になって
いないか、留年させて厳しく評価しているつ
もりの判定をしていないかなど、自分達のや
っている教育をもう一度見直し、新潟大学歯
学部が、世の中から求められている優秀な歯
科医師を送り出すために、歯学部 F D が行わ
れています。（この項、野田 忠記）

歯学部構成員の積極的な参加を望みます。F D
に参加して努力しているかも教官評価につなが
ります。



歯学部附属病院は、 2000年今まさに！

歯学部附属病院長 河野 正 司

本「歯学部ニュース」の平成11年度第1号に、「2000年からの歯学部附属病院は！」と題して掲載させていただきました。その続報として歯病の運営に係わる中期目標・計画、ならびに具現化しつつある病院再編成について報告したいと思いません。

I 「2000年からの歯学部附属病院は！」の まとめ

1. 歯病のあるべき姿

環日本海における拠点病院である本学歯学部附属病院は、「クライアント・ベース」、「エビデンス・ベース」、「オーラルヘルスケア」を基本理念として、歯学部学生、卒後研修医および歯科医師の生涯教育のための教育病院、地域の健康管理を担う基幹病院であり、さらに、先端医療技術を駆使した専門性を有する高度先進病院であります。

2. 歯学部附属病院の存在意義

「教育病院」としての目標は、複数の専門領域にわたる学識を統合する能力、常に自己研鑽し続ける能力を持ち、優れた医療倫理観を有する全人的な歯科医師を育成し社会に輩出することにあります。「地域基幹病院」としては、地域住民を中心とした診療システムを構築することにより、疾患部位別の治療体制への変換、通院困難な方への対応、広域・国際的医療貢献、キュアからケアへの変換、本院と開業医院との病診連携の強化を実現していく必要があります。「高度先進病院」とし

ては、本学歯学部の顎顔面口腔領域における口腔生命科学研究成果を基に、歯および歯周組織領域の構造的機能的再生・再建、顎顔面領域の器官の構造的・機能的再建、高齢者・有病者・心身障害者に対する医療を充実・発展させることです。

3. 2000年からの歯病

国民、地域住民のニーズに答えた歯病であれば、患者数の増加という形で表れます。外来・入院患者数は、最重要な評価基準となるでしょう。また、国立大学が独立行政法人化しますと、附属病院は企業経営型の傾向が強くなりますが、本院が教育病院と高度先進病院である限り、独立採算型に移行することは不可能であります。採算のとりにくい教育・高度先進病院としての赤字部門の存在を納得してもらうためには、新潟大学歯学部附属病院が、次代の高度化した歯科医療を担う、十分な学理と技能とを持った、能力豊かな歯科医師を輩出し続け、さらに本院が高度医療の開発と実践を先進的に行っていることを国民の目に見える形で、実践することが必要であります。

II 歯病の運営に係わる中期（5年間）目 標・計画について

昨年10月に、「新潟大学歯学部附属病院の運営に係わる中期目標・計画について」と題した文部省への報告書をまとめました。この報告書では、これからの5年間に実現可能な目標・計画を具体的に記載するよう要請されたものであり、我々の

道しるべとなるべきものです。昨年10月の段階ですでに各講座、診療科に配布してありますが、要約して解説します。

1. 教育病院（卒前卒直後教育）の中期目標・計画

専門的で高度な知識と技能をもつ、21世紀の歯科医療を担う歯科医師を養成することを目標としています。当院の特色である一口腔単位での患者管理体制を基本として、

- 1) 4年間の一貫臨床教育体制の確立；
5年次生のポリクリから研修医2年目までの4年間の一貫教育を臨床教育としてとらえ、研修医1年目終了までに臨床医として最低限必要な知識・技能・コミュニケーション能力を会得させる。
- 2) 指導医・研修医・学生によるチーム診療の実施；
教育・研修に適した患者の減少に対応するため、指導医の管理下に研修医1年目と6年生がチームとなり患者を診察にあたる。
- 3) 指導的専門歯科医師の養成；
研修医2年目においては、専門医コース、専修コース、GPコースを各自選択することができ、それぞれの専門分野で指導的役割を果たす歯科医師の養成を目指す。

2. 地域基幹病院の中期目標・計画

- 1) 患者中心の最高で、最良の歯科医療の提供；
領域別診療科への再編と診療室の再配置、特殊専門外来の拡充と新設を年次毎に実施する。
- 2) 各医療関連機関との緊密な連携・推進と日本海側広域歯科医療・口腔保健政策への貢献；
医学部附属病院、本学歯学部同窓会、各地区の歯科医師会、自治体・保健所や一般医療関連機関に対して、情報広報委員会を設け、地域歯科医療総合ネットワークを構築する。
- 3) 環日本海国際歯科医療・口腔保健政策への協力と貢献；
国際協力には多大な経費を必要とすることから、ODA、NGOなど政府・財団からの援助

の利用法について検討を開始する。

3. 高度先進病院の中期目標・計画

- 1) 地域ネットワークを取り入れた治療体系の構築；
住民や児童福祉施設への広報活動、啓蒙を通じて患者数の増加、紹介率の向上に努める。
- 2) 言語聴覚治療に関して院内外との連携；
社会的ニーズである言語聴覚治療のさらなる発展のため連携体制を強化する。
- 3) 摂食・嚥下リハビリテーション外来の開設と高齢有病障害者の入院治療；
集中的 歯科治療、口腔ケアの自立、摂食・嚥下機能訓練を柱として展開する。
- 4) 積極的な高度先進医療への申請；
光学印象採得による修復法、エナメルタンパクによる歯周組織再生、歯の凍結保存と歯の銀行、Distraction osteogenesisによる顎骨・歯槽骨の再建、自家歯牙移植を用いた歯科矯正などを申請可能な段階まで発展させる。

4. 病院の経営管理に関する中期目標・計画

- 1) 経営管理委員会の設置；
経営管理委員会を設置して、経営の合理化・効率化、患者サービスの充実を図る。
- 2) 職員としての行動と認識；
合目的性、合理性、合収支性を認識して、患者さんへの奉仕を基盤として行動する。
- 3) 患者数の数値目標；
年1%増を目標として、そのための良質な医療、患者サービスの実施する。

III 新たなる診療組織への改組について

平成12年4月に、院内措置により総合診療部がまず新設されます。その後順次診療体制が大幅に再編成されます。図1のように現行では、11診療科と11の中央診療施設から組織されていました。

今回の再編成により総合診療部と特殊歯科総合診療部の2診療部門、口腔外科、口腔保健科、歯の診療科、噛み合わせ診療科の4診療科と8中央診療施設となります。念願であった患者中心の疾

患領域別診療科への改組でありまして、11診療科から4診療科への移行という「11→4」の数値からみても、いかに大規模の変革であることがお分かりのことと思います。おそらく、本学部創設以来の一大改革として歴史に名を留めることとなるでしょう。

図2には、4診療科と2治療部の具体的な診療内容および、教育内容をまとめてあります。前述してきました、我々が存在する理由としての、教育病院、地域基幹病院、高度先進病院の役割を具現化する診療組織であると確信しております。病院施設から見ますと、病院一階と二階が、総合診療部と口腔保健科、歯の診療部、噛み合わせ診療科、三階が口腔外科、特殊歯科総合治療部となり、ある程度施設としての機能的構造も満たしていると思います。

現在、やっと病院の存在意義、目標が明確となり、診療組織の改組と診療施設の整備がスタートと言えましょう。そして、最も重要なことは言うまでもなく「人的資源」であり、歯学部を構成するみなさんの双肩にかかっております。スタッフひとり一人が、この歯病の中でどのような役割をしなければいけないか、真剣に考え実行すべき時でもあります。

歯学部附属病院は、2000年今まさに進化し、そして皆さんの健闘を期待しております！

図1 診療体制の再編

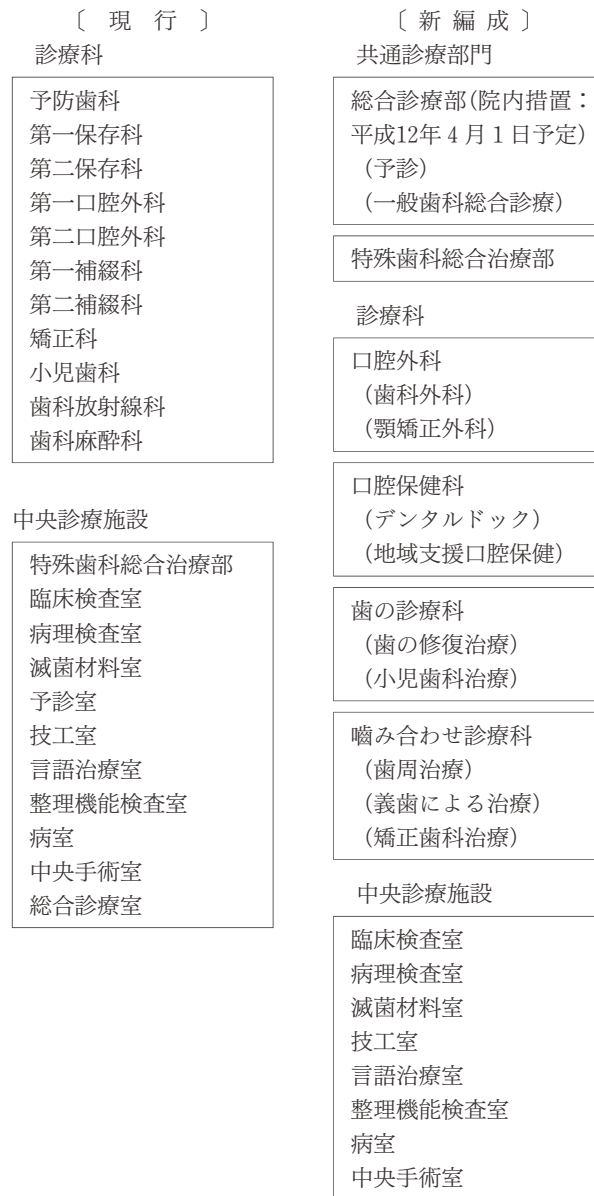


図2 新たな診療組織における診療内容及び教育内容

| 診療組織 | 診療内容 | 教育内容 |
|-----------|--|-------------------------------------|
| 総合診療部 | 予診 一般歯科総合診療 簡単な保存・補綴治療 簡単な口腔外科治療 簡単な矯正治療 (MTM) | 卒前学生の総合臨床実習 研修医の総合歯科研修 |
| 特殊歯科総合治療部 | 言語機能障害治療 顎関節症治療 顎機能障害治療 心身障害 (児) 者の歯科治療 高齢有病者の歯科治療 | 認定医・指導医の育成 |
| 口腔外科 | 腫瘍・炎症・嚢胞・先天異常 外傷の治療、放射線治療 顎矯正治療 O S A S 治療、救急治療 ペインクリニック | ケース制卒前臨床実習 研修医の専門臨床教育 認定医の育成 |
| 口腔保健科 | 歯科保健指導 小児・成人・高齢者の口腔健康管理 福祉施設等訪問歯科治療 デンタルドック、オーラル・ケア | 卒前学生の臨床実習 研修医の口腔健康管理教育 認定医の育成 |
| 歯の診療科 | う蝕治療 根管治療、修復治療 変色歯治療 小児う蝕治療、咬合育成 | ケース制卒前臨床実習 研修医の専門臨床教育 認定医の育成 |
| 噛み合わせ診療科 | 歯周治療、口臭治療、 咬合治療、欠損補綴治療 矯正治療 金属アレルギー治療 インプラント治療 | ケース制卒前臨床実習 研修医の専門臨床教育 認定医の育成 |